

川内北) 令和コミュニティトーク

要約

日 時：令和6年8月6日（火） 14：00～15：25

場 所：消防局 2階多目的ホール

出席者

市：田中市長、福元副市長、未来政策部長、秘書広報課長、コミュニティ課長
地 域：川内北中校区の3地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民23人

（合計42人の参加）

1 地区振興計画について

【亀山地区】

- ・亀山地区は人口が約7,400名、20自治会で構成されている。
- ・安心安全なまちづくりと地域の活性化に重点を置き、さまざまな事業に取り組んでいる。子どもからお年寄りまで参加しやすい行事を行っていききたい。
- ・部会は、環境防災部会、青少年育成部会、社会福祉部会、体育部会、環境保全部会、生涯学習振興部会、地域づくり部会の7部会で構成され、いろいろな活動を行っている。特に、環境保全部会では、環境問題が重視されている中で、耕作放棄地の解消や地域の活性化のために、子供たちが安心して食生活を学べる場を提供し、地域づくり部会と一体となって活動している。
- ・亀山地区には、新田神社などがあり、歴史的にも非常に素晴らしい地域だと思う。
- ・住宅化が進み、自治会加入率が減少しているため、自治会の加入率を上げるための取組について検討している。

【可愛地区】

- ・可愛地区コミュニティ協議会の地区振興計画は23項目を挙げ、継続事業が15、新規事業として8事業を目論んでいる。
- ・私どもの子ども食堂運用の考え方は、一般的に言われている大人が主体となるのではなく、企画、立案、全てを若い中学生、高校生に担ってもらい、運用してもらうというものである。新しいコミュニティセンターは、来年度末までに完成の予定であると聞いており、新しい調理場で運営を切り盛りしていききたい。
- ・新しい世代、若者の考えを取り入れて運営していくことが求められる。いわゆるZ世代の人たちの考え方を取り入れていきたい。具体的には、川内北中学校から10名、川内高等学校から10名の探求生を募集し、地域づくりの課題を見つけ、そして情報を収集して、新しい可愛地区の在り方を勉強していききたい。一緒になって取り組んでいきたい。
- ・少子高齢化の進行とともに、ますます社会はデジタル化が進み、AI時代は年々進化していく。私たちは、情報通信技術、ICTの技術を活用し、可愛地区独自の情報をアプリでつなぎ、自治会の内容、福祉や防災の面まで、多くの可愛地区に関する情報を住民が互いに共有できるシステムを完成させるべく、現在、鹿児島大学とともに勉強中である。
- ・自治会の再編について、2025年以降も問題に対応していくためにも、組織を充実し、生産性を上げられる自治会づくりに努めていく必要がある。我々地区コミュニティ協議会あるいは自治会だけで解決できる問題ではないので、行政からなど

の公助が欠かせない。

【育英地区】

- ・誰もが住みなれた地域で安全安心に暮らせる育英を目指す。地域に愛される、親しまれる、信頼される地区コミュニティ協議会を目指す。
- ・育英小学校の5年生が稲作を行い、田植、稲刈り、脱穀を体験していたが、今年の3月末に田んぼが駐車場となってしまったため、今年から無くなった。
- ・人口は、約2,400世帯で5,200人。高齢化率は、65歳以上19%で、75歳以上9.8%、薩摩川内市で1番若い地域の3本の指に入る。自治会数は9自治会で、中でも鶴峯自治会は510世帯で、全体で1番大きな自治会である。
- ・育英地区の課題として3つほど挙げる。まず、空き地問題である。田んぼの耕作人が減少し、荒れ地は草木が背丈ほど伸び、車の走行時に対向車、歩行者が見え辛く事故の多発危険性がある。
- ・次に、不法投棄問題である。中郷下池周辺は外道から空き缶などのポイ捨て、不法投棄され、不法投棄看板などの設置や防犯パトロールで対処しているが不法投棄が絶えない。年1回、環境整備部会を中心に約30名でクリーン作戦を実施している。不法投棄の回収のごみ量は軽トラックで2台分にもなる。対策としてフェンスや、看板を設置し、こまめに草刈りを行うなど見通しのよい状態にする必要がある。
- ・最後に、自治会未加入者の増加である。育英地区の自治会館率は68.86%、薩摩川内市で最も悪い。自治会の加入は任意であり、強制されるのではない。しかし、自治会は地域の課題をみんなの力で解決し、楽しく住みよい生活環境を維持するための住民自治組織のため、多くの世帯が加入することが望ましいが、解決策がない。自治会に関心を持ってもらうためには、未加入者に自治会が大事な活動していることを印刷物で紹介し、理解してもらうしかない。
- ・第5期地区振興計画計画の重点3項目について。1つ目に「安全安心なまちづくり」である。身近なところで頻発する犯罪を未然に防止し、犯罪の起こりにくい地域づくりを行う安全安心なまちづくりを推進する。2つ目に「生き生きと活力あるまちづくり」である。豊かに自立した生活を送るため、活力とにぎわいのあるまちづくりを推進する。また、誰もが生き生きと活力を持って働くことができる地域社会づくりを推薦する。3番目は、「環境の美しいまちづくり」である。自宅周辺の清掃活動、紙屑や空き缶などの持ち帰り、花と緑あふれる安らぎや潤いを感じるまちづくりを推進する。また、たばこ、空き缶のポイ捨て禁止など、地域の環境美化に努める。
- ・子どもの挨拶運動標語掲示ということで、育英小学校生徒の約400名に挨拶運動の標語を書いてもらい、ゴミステーション24か所のかご約50か所に約100枚の標語を掲示し、3カ月ごとに張り替えて、全生徒の教育をPRしているところである。
- ・育英地区の4自治会でサロンを毎月開催しており、参加者が増加してる。男性の参加が少ないが、脳トレーニングとはんとけん体操を取り入れてから、参加者が定着したということを知っている。
- ・近年社会変化に伴って人的つながりが希薄化し、地区コミュニティ協議会が衰退する傾向があるため、若年層のリーダーを育てていく必要があると考える。

市長コメント

- ・令和元年から令和5年度までコロナ禍の真っ只中であり、地区の活動も中止、延期と滞り感があったと思う。令和6年度からは新計画期間に入り、人口規模が大きい地区でも人口減少、高齢化が進んでいること、コロナ禍を経て市民のイベント参画に対する意識の変化が生じている。
- ・子どもや高齢者の見守り、環境美化、防災、イベント、祭りに関する今後5年間の指針がしっかりと説明されていた。
- ・他地区の地区振興計画を令和コミュニティトークの中で、発表していただくことによって自分の地区の振興計画を知ること、他地区振興計画を知ることができ、非常に貴重なことだと思う。
- ・これからのイベントは多世代参加型である。子どもを中心とすれば、親世代、祖父母世代も参加しやすいということと、自分の地区と共通するイベントがあれば、リレー的に連携しながら取り組んでほしい。ひな祭りでは予想以上の来客であり、これからの地区振興計画、地区イベントの在り方としては非常に有効な方法だと思う。
- ・伝統芸能の後継者育成に苦勞されているところがあるが、居住は他地区でも加勢をいただけるような仕組みづくりをしていかなければならない。
- ・自治会未加入の問題などがあるが、自治組織の地区コミュニティの活性化は、個別に地区の状況を聞きながら、地区内でも、また市役所とも意見交換をしながら取り組むべきだと思う。人口減少が続いているが、住民同士、地区同士、自治会同士のつながりといった支え合い・つながり・共助が非常に大事だと思う。市としても、皆さんとの対話を重ねながら、市内・地区内の社会福祉協議会、消防団、学校関係とも密に情報を共有しながら、活性化の議論をしていくべきと思っている。

2 市政の動向について

市長

(1) 主な動き

- ・11月8日に南九州西回り自動車道建設促進大会を開催した。
- ・1月4日には、薩摩川内市誕生20周年記念懸垂幕のお披露目式を実施した。
- ・1月27日には、川内原子力発電所に関する市民セミナーを九州電力(株)、市、国、県合わせて6機関で初めて開催した。
- ・2月10日には、県の原子力防災訓練が実施され、2月11日に生涯学習フェスティバルを開催した。
- ・3月10日には、肥薩おれんじ鉄道も20周年の節目を迎えた。
- ・3月に祁答院町の黒木小、藺牟田小、上手小、大妻小の閉校式があった。
- ・3月21日に425年の伝統を誇る川内大綱引が国の重要無形民俗文化財に指定された。
- ・4月1日には市誕生20周年記念事業推進本部と、こども家庭センターを設置している。
- ・4月2日には、川内港の高速船の就航が10周年を迎え、記念セレモニーが開催された。
- ・4月8日は、祁答院小学校の開校式があった。
- ・4月15日に、バレーボール女子日本代表チームが合宿を行った。

- ・4月24日は、川内港関係で韓国への定期コンテナ航路が開設して20周年を迎えた。
- ・4月29日には、川内文化ホール跡地にセンノオトがオープンし、素晴らしいにぎわいで、市民の方が求めていることがここに凝縮していると考ええる。
- ・5月18日には、南九州西回り自動車道阿久根川内道路決起大会を実施した。

(2) 令和6年度当初予算のポイント

- ・令和6年度の一般会計の当初予算は575億であり、過去20年間で最大である。特に、子ども・子育て、コミュニティ、産業人材確保・移住定住戦略、SDGs・カーボンニュートラル、DX、市誕生20周年記念事業の6項目に力点を置いている。
- ・子ども・子育てについては、子育て応援券の支給事業、産後ケア事業を拡充している。学校給食費の補助も、一部であるが助成している。全額補助の要望も承っているが、学校給食費を全額補助するには毎年5億円必要であるため、この中の値上げ分が8,000万円程であるため、これについては電源立地地域対策交付金を活用しながら補助が続けられる仕組みとしている。
- ・コミュニティについては、自治会の運営補助金における防犯灯の電気代補助、運営補助などの交付金を拡充している。自治会とコミュニティ協議会の補助金が年間約2億円であり、おそらく43市町村で大きなウエートを占めている。
- ・産業人材確保・移住定住では、人手不足解消対策として、薩摩川内市内の中学校・高校を卒業した者が市内の事業所に就職した場合に10万円分のポイントを付与する事業を開始している。奨学金の返還についても、今年の受付分から最大1人300万円を補助するよう拡充している。また、介護人材、漁業後継者についても新規事業を今年度から開始している。
- ・市誕生20周年であり、記年式典を本年10月12日に実施する。
- ・全地区コミュニティ協議会を対象にDXスマホ教室を7月から12月に48地区全てで開催予定である。
- ・地区サポーター制度で48地区コミュニティ協議会に対し、市職員を連絡調整役として、各1名配置した。

(3) コミュニティ活性化策

- ・自治基本条例を20年ぶりに改正した。具体的には、自治会の加入を含め、地区コミュニティ自治会の役割を説明・声かけをしながら加入促進を図っていく必要がある。
- ・自治会再編協議に要する補助金についても拡充している。地区内で再編を議論する意向があれば、是非、市に連絡頂きたい。他地区の合併状況などの情報提供、必要に応じ市職員も出向き資料や情報を提供するので、ご活用いただきたい。

(4) 空き家対策

- ・空き家関係の補助制度の一部を紹介している。空き家改修サポート事業、空家利活用促進事業の補助金を地域ごとに金額を設定している。空き家バンクの成約奨励金制度など詳細は個別に問い合わせいただきたい。
- ・今年、全市的に空き家の実態調査を行う。いろいろプライバシーなどあるが、皆さんのご協力をいただきながら、調査することになるので、6年度中の空き家などの実態調査にはご協力、ご理解をお願いしたい。

(5) 川内港 唐浜地区 国際物流ターミナル整備事業

- ・唐浜埠頭を県と国が整備している。特に県事業において大きなガントリークレーンを建てる予定で、令和7年度までに県には予定通りガントリークレーンを作っ

て、貿易が開始できるように強く要望している。

※令和5年度令和コミュニティトークの意見の進捗状況について

未来政策部長

- ・前回、令和5年10月21日の際に、出た意見の中で主なものの進捗状況である。
- ・川内川側沿いの市道について、修繕してほしいという質問を頂いた。指摘のあった市道五代・大小路線の道路パトロールを行い、市道上の穴については補修をしたと回答させていただいたが、現在、この路線におけるポケットホール、軽微な陥没については随時補修を実施しているところである。また、本路線の亀山小学校前は令和6年6月に既に契約済みで、11月25日までに舗装工事を完了する予定である。
- ・サンアリーナせんだいの避難道路について、10数年前は冠水によりアリーナに近づけなかったが、現在はどうなっているかという質問を頂いた。去年は、中郷地区の冠水対策の効果的な対策について、国、県、市の3者で検討を進め、災害時の避難については早めに呼びかけたいと回答したところである。その後、避難に関しては引き続き防災行政無線、市ホームページ、市公式LINEなどで早めの避難の呼びかけを心がけている。
- ・中郷地区の冠水対策については、令和5年度に地元の同意を得て、銀杏木川に設置してある農業用の取水施設である原田井堰の撤去工事を実施した。現在も、国、県、市3者での検討を続けている。市では、令和6年度中に冠水対策に向けた実施設計の業務委託を行うこととしている。

3 事前提出議題

議題1 グリーンベルトについて【亀山地区】

未来政策部長

通行車両への注意喚起、歩行者の安全安心の確保のために、歩道が整備されていない小学校、中学校周辺、亀山地区コミュニティセンター前の道路に早急なグリーンベルトの整備が急務であると考えている。

回答としては、亀山地区においては、通学路や生活道路が集中しているため、平成26年度に一部の区域を歩行者等の通行を最優先とする区域に設定し、車両などの最高速度を30km/hに規制する「ゾーン30」に指定するとともに、市道宮内・上土器手線については、市道宮内・五代線から亀山小学校までの約400m区間について、路側帯のカラー化を実施したところである。要望区間を調査したところ、外側線が消えている箇所が確認できたため、まずは外側線の引き直しを先行して実施する。また、路側帯のカラー化については「ゾーン30」を中心に検討してまいりたい。

議題2 スクールガード・リーダーの配置について【可愛地区】

未来政策部長

スクールガードについては、可愛地区コミュニティ協議会では、ボランティア有志による補導、立哨を行っている。今後の課題として、学校の安全、見守り活動を充実させるためにスクールガード・リーダーを配置する考えはないか。現状と課題を教えていただきたい。

回答としては、本市の学校の安全、見守り活動は、各小学校が地域の方々にスク

ールガードの参加の呼びかけを行っていただき、市全体で現在 268 人の登録がある。また、警察では、防犯ボランティアを 324 人に委嘱し、合計 592 人により各小学校の通学路や学校敷地内において、不審者から子どもたちを守る活動を行っていただいている。なお、可愛小学校には、スクールガード 17 人、防犯ボランティア 9 人の合計 26 人が活動いただいている。

鹿児島県の学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業実施要領によると、スクールガード・リーダーは、概ね小学校 6 校から 7 校に対して 1 人の割合で配置することとなっており、人数換算すると 4 人程度になる。この 4 人が各学校を定期的に巡回することは、活動が広範囲になることが予想され、負担も大きいと考えている。また、警察官 O B や防犯の専門家などにスクールガード・リーダーを委嘱することとなるが、人材確保に苦慮していると聞いている。現時点では、スクールガード・リーダーについては、課題が多いことから導入はせず、現行の「スクールガード」と「防犯ボランティア」により、子どもたちの見守り活動を継続したいと考えている。

川内北中学校区の亀山、可愛、育英の 3 校に 1 人リーダーを配置する場合は、基準が異なるので、補助対象になるか県と協議したい。

【意見：可愛地区】

前回質問したキッズゾーンについては解決した。みくに幼稚園周辺にキッズゾーンを設置しようとなり、現場の立ち会いなども終わっている。これは県でも初めての事例ではないかと考えている。

令和元年度から令和 5 年度まで、鹿児島県の声かけ事案は中学生以下で 150 件ほど増加している。幸いなことに特別な災害、事故などはないが、こういう問題を先取りして対応していただきたい。スクールガード・リーダーについても、県、薩摩川内市でもまだ取り扱いがないと聞いている。子どもたちの安全のためにも早い対応をお願いしたい。

議題 3 危険箇所に対する要望とその後の経過について【育英地区】

未来政策部長

1 つ目が、高城町市道前畑・上池線の総合運動公園入口交差点である。市道前畑・上池線の総合運動公園入口交差点は時間帯によっては車両の大渋滞が日常的に発生し、周辺地域住民の生活にも大きな障害となっている。消防局方面から直進する車両が総合運動公園方向へ右折する車両の待機のために極めて流れが悪く渋滞の原因となっている。当公園で競技会などが開催される場合は、渋滞のために開催時刻に間に合わないなど、幾多のトラブルが発生している。危険箇所に対する要望として、下東郷支部育英分会からの要望もあり、当交差点における道路拡幅及び右折レーンの新設をお願いしたい。また、その後の経過報告をお願いしたい。

2 つ目が、総合運動公園正門付近である。総合運動公園には、土日祝日及び平日の放課後、多くの高校生等が自転車で利用に訪れる。総合運動公園の正門付近に横断歩道がないため、通行車両の切れ目を見て横断している現状である。そのため、総合運動公園正門付近に横断歩道の新設をご検討いただきたい。また、その後の経過報告をお願いしたい。

1 つ目の御意見に対する回答である。高城町市道前畑・上池線の総合運動公園入口交差点について、朝夕の渋滞については、昨年 9 月に実施した交通量調査の結果

からも認識している。また、道路拡幅及び右折レーンの新設については、周辺地域における渋滞対策と調整しながら検討してまいりたい。

2つ目の総合運動公園正門付近についての回答である。横断歩道の設置については、警察（公安委員会）が設置の可否を判断し、設置することとなるが、令和5年度秋の道路診断において要望箇所はカーブ付近で見通しが悪いため、設置は困難との回答であった。横断歩道を設置しても、逆に危険という判断であった。今回の要望を受けて、薩摩川内警察署に再度、横断歩道設置の可否について確認したところ、同様の回答であった。道路管理者として市ができることは何かないかと考えたところ、注意喚起の路面標示（減速マークなど）を設置したい。

【意見：育英地区】

総合運動公園前は公安委員会の判断で横断歩道の設置困難ということだが、市で道路標示を設置するという認識で良いか。

また、運動公園入り口の右折レーンの新設だが、その現場は右折側の用地買収する箇所は、住宅がなく、5mぐらいの高さの山林地になっている。用地買収が終われば工事自体は1カ月で終わる規模ではないかと考えている。京セラ株式会社との交通の形態を加味しながらの設計に入るとなると結構な時間がかかると思う。そのため、緊急箇所として早急に取り上げていただきたい。川内川の近くの市道山田島・五代線から入口まで約2.5km、国道267号の南日本銀行の交差点から約1.9km、天神池交差点から500mで、この区間は相当渋滞をしているため、交通量調査を9月に実施されたということだが、早急に対応していただきたい。

未来政策部長

現状は十分認識しておりますので、また検討はさせていただきたい。

4 フリートーク

(1) 地区振興計画について

特になし。

(2) 市政の動向について

特になし。

(3) その他（地域が抱える課題等について）

【意見：亀山地区】

朝夕、小中高生が亀山地区の道路を通行するが、特に、五代郵便局の前は、信号も横断歩道もない上に、カーブ道である。子どもの安心安全のために、市は何か施策を考えているのか。

市長

五代郵便局付近の県道の交通安全について、小中高生の通学が多い中、横断歩道や信号機の設置の考えはないかという質問、要望と受け止める。県道管理者や警察に要望を伝える必要がある。手順的には、地区の交通安全協会から検討箇所を挙げていただき、道路診断などを行っていくこととなる。詳細については、市担当者に

話を繋げるので、内容を教えていただきたい。

【意見：亀山地区】

亀山地区コミュニティセンターの冷暖房は、1時間当たり100円で利用している。近年は、猛暑が続いているため、子どもやお年寄りの方などが水を飲まして欲しい、休憩をさせて欲しいと地区コミュニティセンターに来られる。その際、和室や会議室を利用させていただいたり、水を飲んでいただいたりしているが、冷房を利用する場合は、使用料をいただいている。

最近猛暑が続く、熱中症で死亡される方も多々いるため、避難場所として夏場だけでもコミュニティ主事、事務員の判断で冷房を含めてコミュニティセンターを誰でも利用できるようにできないか。

市長

昨今の猛暑が続く中、猛暑に対する避難所として利用できるスペースが求められているため、この場では断言し兼ねるが参考にさせていただきたい。市役所、アリーナ、国際交流センターなど市公共施設と同様、コミュニティセンターも公共的な建物であるため、どういう手法ができるか検討したい。

【意見：育英地区】

先日行われた道路愛護運動の報告書、作業中の写真、作業前後の状況写真を紙で印刷して提出した。提出書類に関してメールにPDFファイルを添付して提出する方法にし、ペーパーレス化できないか。その他、市役所に提出する書類でペーパーレス化できていない書類が多々あるので、ペーパーレス化し、市役所に足を運んで提出しなくても済むようにしていただきたい。

また、自治会文書の配付は自治会で仕分して各自治会員に配付しているが、インターネットなどが活用できる環境の方は、インターネットで見えるようにすれば、印刷物に掛かる経費削減も可能であると思う。市全体でペーパーレスや配付の簡略化について、より一層考えていかなければならない。高齢者は難しい面もあると思うが、若年層に対してはインターネットで見ることができる状況を考えて取り組んだ方が、今後のためには良いのではないかと考える。

市長

市政の方針でも申し上げたDX推進について、SNSやAIが発展し、ペーパーレス化は、避けられない状況にある。

今年度、市もスマートデジタル計画を作成し、行政手続においても、可能な部分から紙ではなく、ペーパーレス化し、電子データでやりとりができるような仕組みに転換していく。

また、自治会回覧についても、ネット回覧を検討していくが、同じ自治会の中でも、対応できる人とできない人がいる。このことを「デジタルデバイド」というのだが、全員がネット回覧だけで十分なのかという問題がある。そのため、DX化を推進し、ペーパーレス化を図ってはいくが、紙でのやりとりと電子データは併用していく必要があると考える。

【意見：育英地区】

育英地区の野間島自治会では、既に回覧版をスマートフォンで見れるようにしている。

【追加意見：育英地区】

野間島自治会では、市役所のラインと同様に自治会単位でラインをしており、回覧内容、行事予定の共有、愛護作業の写真などを自治会のラインで共有している。会員数が250人で、ラインで内容を確認している方も100人ほどいる。詳しい方がいれば各自治会でもできるかと思う。

【意見：可愛地区】

まず、交通安全対策について。今年の5月6日に東大小路町の川内川堤脚道路、おれんじ鉄道ガード下で交通死亡事故が発生した。これについて、5月30日に警察署、交通安全協会、市役所関係課、地元自治会長などが集まり、現場検証が行われた。

川内川の大小路みらい公園が整備され、イベント、ウォーキングなどで河川敷への往来が増えてくると予想される。歩行に対して交通安全対策が必要と思われるが、市は、標識など対応を考えているのか伺いたい。

次に、消防操法大会について。今年、薩摩川内市は操法大会を開催されなかったが、この大会は2年に1回の非常に大きな消防団の大会である。消防団員の確保が非常に難しい分団もあると聞いているが、操法大会の実施を持ち望んでいた分団もあると聞いている。消防団の操法大会は、ただタイムを競うだけではなく、万が一の時に機敏に行動できるようにするための訓練の一環でもあり、人材の養成の意味合いもあると考えており、なぜ開催されなかったのか理由を伺いたい。

最後に、京セラ工場に係る道路アクセスについて。現在、国道3号までのアクセス道路のルート案が検討されていると思うが、今後、新工場の増設、操業が始まれば、今以上に朝夕の交通量が増加すると思われるが、川内川に橋を架けるなどの計画がないか回答いただきたい。

市長

おれんじ鉄道下で、不慮の事故が起きてしまい、その後、交通死亡事故現場検討会があった。市としてできることとして、自発光機能を有する道路鋲を7月8日に設置している。以前よりは注意喚起の改善がなされたと思う。

消防団の操法大会中止について。この取扱いについては、消防団の幹部会議の中で、協議し、結果的に今回は薩摩川内市の操法大会は中止になった。それを受け、消防局長と消防団長、幹部に年2回必ずそれに代わる機械操作と規律訓練を実施するように指示をし、既に計画表が完成している。それに基づき、先日、川内地区の分団は西開聞の河川広場で実施していた。操法大会には、志気を盛り上げること、機器操作、規律訓練の意味合いがあるが、今の世代の方々の考え方の変化もあり、スピードのみを競うことに幾らか抵抗がある世代がいること、訓練時間の確保ができない、全分団における共通課題であるが新入団員の確保に非常に苦労していることなどの背景があり、話し合いの結果、今回の操法大会は中止になった。しかし、操法大会に代わる消防団員としての最低限の機械操作技術と規律訓練、集団訓練に取り組む決まりを作るように指示し、年2回、全分団が実施するように計画を立てている。また、消防団長と消防局長には、操法大会に代わる全分団の年2回の訓練

の年月日と場所の一覧を広報するように改めて指示する。

京セラ関係の道路について。川内川に橋を架ける計画については長期的な構想であり、現時点では明言できない。京セラ工場に係る道路アクセスについては、高城産業用地から国道３号線への（仮称）市道矢立・上川内線の調査を進めており、距離、年数、財政規模などを含めて議論していきたい。